

大分県津久見市観光周遊性創出事業にみる社会実験と拠点形成のあり方に関する考察

福岡大学大学院工学研究科 学生会員
福岡大学社会デザイン工学科 学生会員

○近藤 美沙希 正会員 柴田 久, 石橋 知也
瀬戸口 隼

1. はじめに

現在地方都市の衰退が懸念され, 中心市街地の空洞化が問題視されている。これに対し仮施設を活用した取り組みが各地で推進されており, 大分県津久見市においても中心市街地の賑わい創出を念頭に, 津久見観光周遊性創出事業(以下: 本事業)として平成27年度より3ヶ年計画で社会実験が実施されている。本研究では上記社会実験プロセスを詳述し, 中心市街地活性化を目的とした社会実験ならびにまちなかの拠点形成のあり方について考察することを目的としている。

2. 対象地の概要

(1) 本事業の背景

津久見市は観光振興として「つくみイルカ島」や「つくみん公園」等が核となり, 市外・県外から多くの観光客を集客している。しかし, 地域産業の低迷や, 人口減少などにより, 津久見市中心市街地には空き家, 空き店舗が多く発生している。さらにこれらの問題による中心市街地の過疎化対策も津久見市の大きな課題となっている¹⁾。そのようななか津久見市は本事業を立ち上げ, 大分県や地域住民, 大学らと共に市街地活性化に向けて検討することとした。

(2) 津久見市における地域づくりの諸活動

津久見市では行政及び地域住民によってこれまで様々なまちづくりの活動が行われている。とくに津久見市には「C-Lab.TSUKUMI」というボランティア組織が存在し, まちなか清掃ウォークの企画やつくみん公園で市内既存商店の商品をPR するなどの活動が行われていた。加えて市街地の空き店舗を利用した定期的なイベントを実施しており, それらの活動を継続的に支える行政職員の存在があった。しかしながら, これらの市民団体による活動は個別に実施されており, 津久見市における一体的なまちづくり活動にまでは至っていない実情が垣間見られた。

3. 社会実験プロセスの概要

本事業の現在に至るまでの事業プロセスを表-1 に示す。なお本章では上記のプロセスにおいて特筆すべき事項について時系列的に記述する。

(1) 社会実験の取り組みの検討

平成27年7月6日に開催された第1回WSでは, コアメンバーに加えその他地域住民, 地元の高校生及び大学生を交えた構成で議論を行った。仮施設によるまちなか再生の事例と3年間の目標案(1年目: つくみん公園の賑わい強化, 2年目: まちなかでの暮らしのたまり場の創出, 3年目: 管理

表-1 3ヶ年(平成27~29年度)の事業プロセス

日付・項目	協議・作業内容
4/30 第0回WS	・津久見市が選定したコアメンバーより地域の課題やまちづくり活性化のアイデアを抽出
7/6 第1回WS	・3年間の目標案(1年目: つくみん公園の賑わい強化, 2年目: まちなかの暮らしのたまり場の創出, 3年目: 管理主体の検討)を確認。共有 社会実験の内容について検討
9/2 第2回WS	・つくみん公園に向き、コンテナの大きさや設置予定箇所の確認 ・コンテナの設置予定箇所及び取り組み等の提案、アイデアの聴取
10/6 事業打ち合わせ①	・WS参加者と大分県、津久見市の計25名が参加 ・これまでのWSの振り返り及び事業の3年間の目標を共有、今後の取り組みについて協議
10/20 事業打ち合わせ②	・WS参加者と大分県、津久見市の計20名が参加 ・社会実験開始に向けて個人としてどのような関わり方ができるか等の意見出し ・雑誌コーナー、観光情報を提供する場及び休憩スペースとしてコンテナを開放 ・コンテナの名称及びコンテナ内での取り組みについてのアンケート調査の実施
10/24.25 社会実験開始	・WS参加者と大分県、津久見市の計20名が参加 ・前回の打ち合わせ会、ふるさと振興祭アンケート結果、コンテナ管理者記録等の報告 ・コンテナの名称及びWSの開催、コンテナの今後の運営について協議
11/10 事業打ち合わせ③	・WS参加者と大分県、津久見市の計20名が参加 ・前回の打ち合わせ会、ふるさと振興祭アンケート結果、コンテナ管理者記録等の報告 ・コンテナの名称及びWSの開催、コンテナの今後の運営について協議
12/4 第3回WS	・運営組織と連携したコンテナ活用イメージの共有及び具体的なアイデアや改善策の聴取
7/21 宮本共有会館視察	・参加者は大分県、津久見市、大分大学、福岡大学、コアメンバー ・宮本共有会館内に見学や同施設の管理者と活用方法について協議
8/27 納涼イベント	・コンテナ293号にてWSメンバーの懇親及び地域住民に活動を知ってもらうことを目的に ・納涼イベントを開催 康テナ293号の新たな活用方法が広く周知された
9/23 まちづくり学習会	・津久見市職員に対して本事業内容について説明し、職員も一市民としての協力を求めた ・観光資源の活用や社会実験終了後の懸念など多くの意見が挙げられた
10/18 第4回WS	・本事業の3年間の目標を再確認 ツクミツクリタイの立ち上げと今後の取り組み等の検討
11/22 第5回WS	・ツクミツクリタイ設立の経緯と組織についての共有 今年度取り組み社会実験の提案
2/12.18.19.25.26 さくららんアリー	・河津探祭りの開催にあわせて、期間中の週末にツクミツクリタイがクイズラリーを企画 ・コンテナ293号をスタートに計5か所のポイントを巡るコースを設定
4/11 事業打ち合わせ④	・ツクミツクリタイ10名、大分県1名、商工観光課2名の計13名が参加 ・社会実験終了後を見据えた今年度の活動やツクミツクリタイの目標、津久見市が今後のツクミツクリタイに期待すること等について協議
4/18.6/7.4.11.18 ツクミツクリタイ 役員会①~⑤	・ツクミツクリタイの年間事業計画や活動の方向性、今後のスケジュール等について 役員間で議論 今後コンテナ293号をどのように維持していくかの検討
8/5 ツクミツクリタイ 夕涼み会	・参加者は大分県、津久見市、大分大学、福岡大学、ツクミツクリタイ会員 ・これまでのツクミツクリタイの取り組みや今年度の計画を説明
ツクミツクリタイ 役員会⑥~⑦	・つくみんウォーターパークの詳細や準備、宮本共有会館オープンに向けて役員間で協議 ・ツクミツクリタイ会員全体に協力を要し、各イベントの人員配置の計画を行うこととした
8/26.27 つくみん ウォーターパーク	・夏でもつくみん公園を楽しんでもらおうと活動部会の1つ「TSUKUMIX」が企画 ・公園の遊具を利用したウォーターライダーや水鉄砲で戦う水撃大会を開催、多くの 家族連れで賑わった
8/29 ツクミツクリタイ 役員会⑧	・宮本共有会館の今後の構想や漆喰壁塗WSの詳細等について協議 ・宮本共有会館は土日祝日の10~16時の時間帯で開放し、利用者のニーズを探ることとした
9/14 漆喰壁塗WS	・宮本共有会館の内壁を漆喰で塗るWSを開催 ・作業後はこれまでWS資料等を活用しながら継続的なイベント等に向けてのアイデアや 改善策について意見出し 宮本共有会館の名称を「1/2(ニブンノイチ)」に決定
9/16 「1/2」オープン	・宮本共有会館を改装した理由や今後の「1/2」活用の構想等について利用者に説明 ・利用者に対して「1/2」の改善点、活動のアイデア等についてのアンケートを実施
9/17~ 台風18号被害からの 復旧作業開始	・台風18号は約430ミリという記録的な豪雨をもたらし、市内全域で浸水被害が発生 ・コンテナ293号は被害が小さかったが、人員を配置するのが難しく当面の間は休業 ・「1/2」は床から約20cmほど浸水。建物内にも泥が入り、施設入口のシャッターや空調の 室外機等が損壊。ツクミツクリタイ有志で復旧作業を開始
9/21 「1/2」活動再開	・ツクミツクリタイ有志がボランティアで、「1/2」を休憩所として開放 ・コーヒー等の飲み物やトイレ、着替えのできる場所の提供、災害に関する情報発信
10/25 ツクミツクリタイ 役員会⑨	・コンテナ293号と「1/2」の運営について協議 ・津久見ふるさと振興祭や復興イベントつぐみ冬まつりへの参加について
10/28 つくみハロウィン	・台風被害の影響で延期となったイベントも多く、地域の子供たちや商店街に元気を取り 戻そうとツクミツクリタイ有志がハロウィンイベントを開催 ・子どもたちがお菓子求めて商店街を練り歩き、多くの親子連れで賑わった
11/8 ツクミツクリタイ 情報共有会	・ツクミツクリタイ会員の現状確認とツクミツクリタイの今後の活動について共有 ・コンテナ293号と「1/2」のスタッフ、津久見ふるさと振興祭の協力者の募集を行った
11/11 コンテナ293号再開	・土日祝日の10~16時に開設 ・雑誌コーナー、観光情報を提供する場及び休憩スペースの開放を再開
11/18.19 津久見ふるさと振興祭	・子供向けのくじ引き等や台風被害の記録と「1/2」の様子等のパネル展示を行った ・19日夜は「1/2」にて5組のアーティストによるライブを開催。地域住民を無料招待

主体の検討)を参加者間で共有した。その結果, 社会実験の内容はコンテナを設置する取り組みを行うこととなった。

(2) 社会実験開始に向けた作戦会議

平成27年9月2日に社会実験開始に向けたコンテナの設置箇所や使い方を検討する第2回WSが開催された。本WSの直前にコンテナの確認・共有を図るため任意参加でつくみん公園にて視察が行われており, コアメンバーとその他地域住民, 地元の高校生及び大学生を交え議論が行われた。視察の際, 大学よりコンテナの設置箇所の説明が行われ(表-2), 提案通りつくみん公園の築山上に設置することでWS参加者から概ね了承が得られた。コンテナの確認を行った後, 会議室でグループ作業に取りかかり, WS参加者に対してコ

ンテナ内での取り組みについてアイデアを聴取した。

(3) 社会実験の開始

平成 27 年 10 月 24 日よりつくみん公園の賑わい強化を図ることを目的に設置されたコンテナの社会実験を開始した(写真-1)。コンテナ内は雑誌コーナー、観光情報を提供する場及び休憩スペースとして開放され、本を読む高齢者やウッドデッキに座る家族連れで賑わった。コンテナの開錠時間は土・日・祝日の 10 時～17 時とし、主にコアメンバーが当番制で管理していくこととなった。

(4) まちづくり組織の設立

平成 28 年 11 月 22 日に開催された第 5 回 WS では、コアメンバーに加え新たに参加した地域住民の計 45 名で議論を行った。本 WS では任意団体「つくみんツクミツクリタイ(以下:ツクミツクリタイ)」設立に至るまでの経緯や会則等について説明が行われ、参加者より承認が得られたことから、同日を持ってツクミツクリタイ設立とした。その後のグループワークでは、ツクミツクリタイの具体的な活動内容や今年度中に取り組むべきこと等についての意見出しを行った。

(5) 新たな拠点施設「1/2」の誕生

平成 29 年 9 月 16 日にまちなかの新たな拠点施設として「1/2」がオープンした(写真-2)。オープンセレモニーではツクミツクリタイ会長より宮本共有会館を改修した理由、今後の「1/2」の活用方法等について説明がなされた。また利用者にアンケートを実施し、「1/2」の雰囲気への評価や要望等、計 6 項目についての意見を聴取した。

4. 社会実験により得られた成果及び考察

(1) 社会実験における拠点施設の役割

本事業では、1 年目にあえて効果の得やすい対象地を選定し、つくみん公園にコンテナ 293 号を設置した。これは、社会実験前の津久見市におけるまちづくり活動の実情を踏まえ、まずは地域住民間でまちづくりの成功体験を共有し、機運を高めていくことが必要であったことに起因する。またコンテナをつくみん公園(行政管理区域)に設置したことは津久見市役所職員のまちづくりに対する意識改革を促したといえよう。2 年目においては、コンテナ 293 号による拠点が



写真-1 コンテナ 293 号の外観 写真-2 「1/2」利用者の様子

表-2 築山に設置することの利点

1. つくみん公園全体を眺めることが可能でまち側からの視認性も良いこと
2. 遊具の見晴らしが十分に確保できる可能性があること
3. 水道、電気の引き込みがしやすいこと
4. 公園内でのイベントの際に邪魔にならない場所であること
5. コンテナを公園の端に設置することで将来的な用途変更に対応しやすい

形成されたことによって、当初の計画よりも早い段階からまちづくり組織設立に向けた議論や準備が行われ、実際に設立の完了にまで至っている。この間、津久見市役所から独立して住民主体による観光周遊に資するイベント活動がみられる等、本事業のまちづくり活動における行政と住民の役割にも変化が見受けられた。こうした活動実績が実を結び3年目には、収益活動とともに各種打ち合わせや関係者の懇親場所等にも利用できる、より使い勝手の良い拠点施設「1/2」がまちなかに形成されることにつながった。すなわち、社会実験による拠点形成はまちづくり活動を支える組織の樹立と行動力の強化に寄与する可能性が高く、社会実験を推進していくうえで重要な試行といえるだろう。

(2) まちづくり活動を束ねる装置としての拠点形成

ツクミツクリタイは主に地域住民らで構成されており、これまでもコンテナ 293 号や「1/2」の管理を当番制で行い、有志により商店街の店舗とともにハロウィンイベントを短期間で実施する等、個人の自主的な活動に支えられている。これらの活動の背景には、前述したまちづくり組織の設立以前から存在した既存の市民団体やそれを支援してきた地域住民等の個別の取り組みが根底にあったことが挙げられる。さらに、コンテナ 293 号等の拠点施設ができたことによって、それまでツクミツクリタイと一緒に活動してこなかった市民や企業の参入と連携もみられた。すなわち、社会実験による拠点形成はそれまで個別に行われていたまちづくり活動を束ねる装置として機能する一方で、実験前の助走期間として地道なまちづくり活動の重要性が指摘できよう。

(3) 運営組織の体力を考慮した拠点数の検討

一方、ツクミツクリタイは個人の裁量に任せている部分が多いため、徐々に拠点施設の活用の幅が広がっている事実を効果的に発信できていない点やイベント時の収支の記録が残っていない点などは実験結果の成果をアピールしていくうえで反省点といえるだろう。現時点でのツクミツクリタイは賑わいづくりのイベントを開催することに注力しており、持続可能なまちづくり組織の体制とは言い難い。さらにこのような状況のまま複数の拠点施設を運営していくことは、ツクミツクリタイを疲弊させ、組織自体や拠点の破綻を招くことにもなり兼ねない。すなわち、公民連携のまちづくりにおいて市民組織の自立・自走は重要であることに加え、まちづくり活動の拠点施設を設置する際には、その後の運営にあたるであろう組織の体力を考慮し、適正な施設数・規模について冷静に検討しておくことが肝要といえる。

参考文献

- 1) 津久見市:都市計画マスタープラン 全体構想「都市の特性・問題点と課題」資料